

# 企業知財人材に 必要な実務教育のあり方と 方法のアップデート

2025/09/11

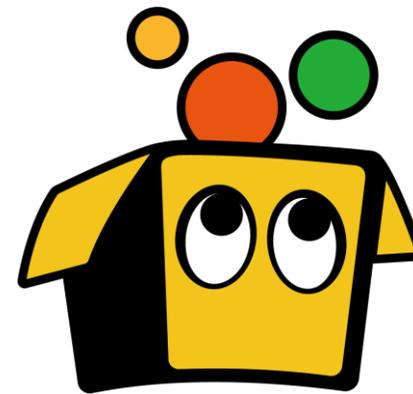
知財・情報フェア&コンファレンス

E会場16:05-16:50



株式会社  
知財の楽校

Chizainogakko Co., Ltd



知財塾



**玉利 泰成**  
Yasunari Tamari

2014年04月

出光興産株式会社 知的財産部 配属

2019年04月

同社 リチウム電池材料部 知財戦略グループ 異動

2021年02月

特許の楽校 開業

2021年08月

株式会社知財の楽校 設立 代表取締役社長 **【現職】**

2022年11月

株式会社Polyuse BizDev 知財戦略MG **【現職】**

2023年10月

株式会社知財塾 社外取締役 **【現職】**



# 自己紹介ポートフォリオはこちら



**玉利 泰成**  
Yasunari Tamari



# 知財導入教育の現状と理想 (IP専門人材)

## 導入教育のTarget

IP専門人材

## 現状の教育 As-Is

- 属人的でOJTの依存度が高い
- 属社的で業界発展性に乏しい
- 実務スキルを実践試行しにくい
- 分野を跨ぐ実務体験を得難い

## 理想の教育 To-Be

知財実務スキルを実践と共に  
体得できるメソッドを  
業界内で提供し合える教育

## Gapへのアプローチ

演習・事例をベースとする  
**スキル別ゼミ講座**  
手頃に自己研鑽を始める  
**知財塾Now**

### 従来のOJTスタイル



教育担当

教える



新人

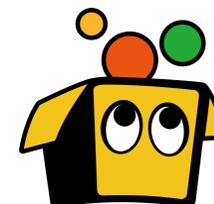
わからない  
ことを質問

- 教育に時間がかかる
- 相性の良し悪しがある
- 教育担当者の生産性が下がる
- 新人にとってはマニュアルすら難解

教える側・教わる側の双方が苦しい状態

知財塾の  
コンセプト

知財の現場で実際に求められる実務スキルにフォーカスして  
繰り返し演習を実践することで効率的にスキルを身に着ける



知財塾

実務に  
基づいた  
事例演習



現役  
実務家の  
ファシリ  
テーション



通学不要の  
オンライン学習



# 知財導入教育の現状と理想 (BizDev/R&D人材)

## 導入教育のTarget

**BizDev/R&D人材**

## 現状の教育 As-Is

- 教育の資料や体系が知財本位
- 事業やR&Dへの立脚が不十分
- テキスト情報が多く学習労力大
- IP人材との連携や役割が曖昧

## 理想の教育 To-Be

事業・R&D目線に立脚した  
知財知識体系を  
IP人材と共有し合える教育

## Gapへのアプローチ

事業と研究開発の視点に立ち  
知財の知識体系を  
図解によって再構築した  
**動画教材パッケージ**

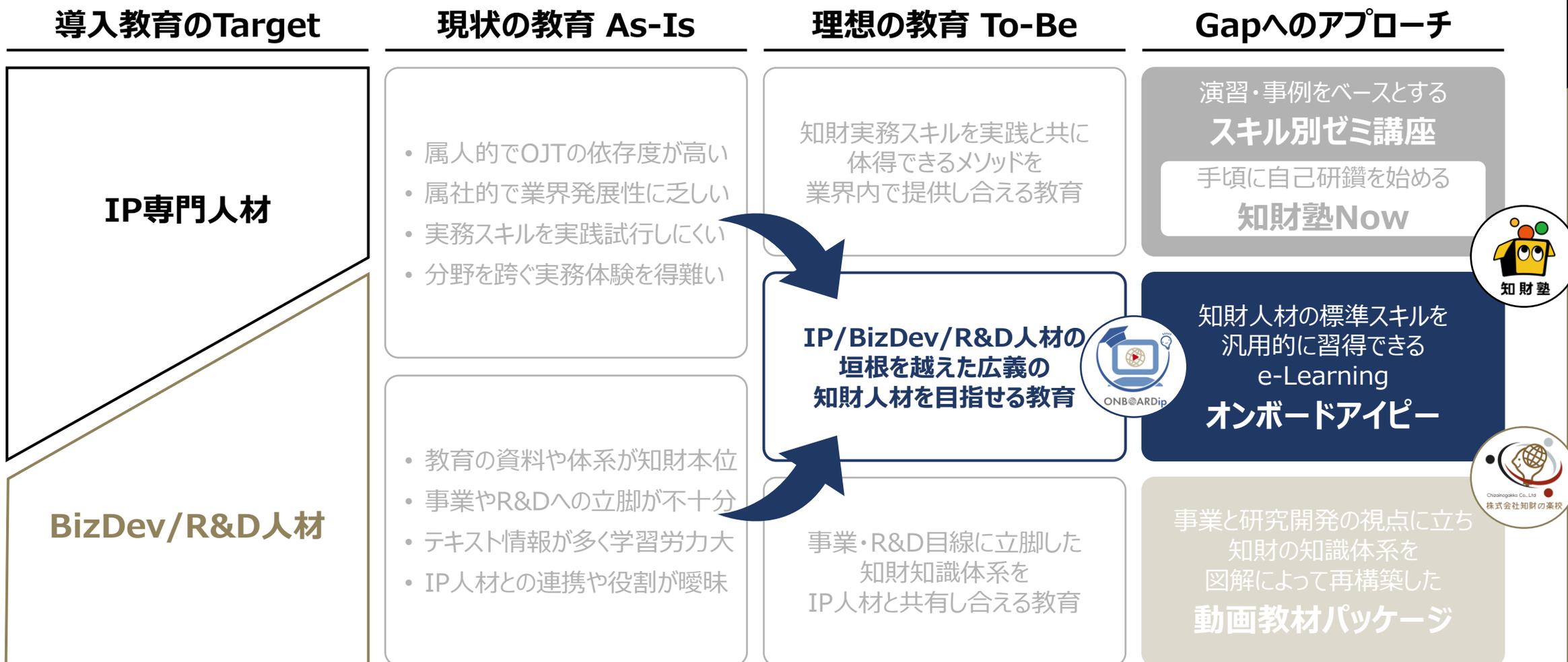


具体事例が  
知識体系に  
紐づいて蓄積され  
全体レベルが向上

動画教材の  
知識体系を  
フレームワークに  
知財活動を実践



# 知財導入教育の現状と理想（広義のIP人材への拡張）



2024/10/01に知財の楽校と知財塾のアライアンスでリリースしたばかりのONBOARDipを実演とともにご紹介



# オンボードアイピー



ONBOARDip

知財人材のオンボーディングに  
特化したe-Learningサービスをご提供

presented by



supported by



## 本日このカードを受け取った法人様限定の特典

2026年初頃に出版が決定している知財の楽校による  
知財戦略の図解書籍を刊行後最速で2冊分プレゼント  
(オンボードアイピーに収録されているコンテンツにも対応)

秘密の言葉は



オンボ! P

<https://www.patentamuse.com/services/onboardip/>

🔍 オンボードアイピー

本特典はオンボードアイピーのIDを1つ分ご契約いただいた時点で発生いたします

2025年11月末までにオンボードアイピーをお申込みいただいた方への限定特典

# 図解でスッキリ！ 研究開発のための知財戦略の仕組み - 仮

## 第1章 事業・研究開発と知財戦略の繋がり

- 1-1 研究開発活動を加速する知財戦略
  - 1-1-1 研究開発のステージと無形資産の蓄積
  - 1-1-2 研究開発のステージアップと事業ファイブフォースの強まり
  - 1-1-3 研究開発による無形資産を原資にしたテリトリー構築
  - 1-1-4 ナレッジマネジメントによる研究開発の加速
  - 1-1-5 事業のスケールアップに対する研究開発・知財戦略の役割
- 1-2 ビジネスモデルの実現と知財戦略
  - 1-2-1 そもそもビジネスモデルとは何か
  - 1-2-2 ビジネスモデルと研究開発成果を繋ぐ知財戦略
  - 1-2-3 オープン&クローズドによるビジネスモデルの高解像度化
- 1-3 攻めと守りの両面で捉える知財戦略
  - 1-3-1 事業領域の陣取り合戦で捉える知財活動
  - 1-3-2 攻めと守りの知財ポートフォリオ
  - 1-3-3 ビジネスモデルと攻守の知財戦略ドメインの符合

## 第2章 ここだけ押さえる！ 特許の前提知識

- 2-1 特許制度とは
  - 2-1-1 特許制度の趣旨と構図
  - 2-1-2 研究開発者と特許制度の関係性
- 2-2 特許請求の範囲と出願明細書
  - 2-2-1 特許請求の範囲の読み解き方
  - 2-2-2 出願明細書の読み解き方
- 2-3 特許出願とは
  - 2-3-1 自社特許出願と他社事業との位置関係
  - 2-3-2 自社特許出願の基本的な流れ
- 2-4 特許審査とは
  - 2-4-1 権利化に要する時間と基本的な流れ
  - 2-4-2 審査でチェックされる代表的な項目

- 2-5 他社特許対策とは
  - 2-5-1 他社特許対策と自社事業との位置関係
  - 2-5-2 他社特許対策の基本的な流れ
- 2-6 特許における早さの重要性
  - 2-6-1 特許は早い者勝ちと言われる理由
  - 2-6-2 特許の早い遅いは何を基準に判断されるか

## 第3章 フレームワークで学ぶ！ 自社特許ポートフォリオの形成

- 3-1 特許網構築の意義と全体像
  - 3-1-1 守りと攻めで見る特許網の意義
  - 3-1-2 個と群で高める特許網の価値
  - 3-1-3 事業・開発オプションと特許ポートフォリオ
  - 3-1-4 特許ポートフォリオ形成の全体像と進め方（5W1H）
- 3-2 「技術」視点の特許ポートフォリオ（What）
  - 3-2-1 特許ポートフォリオの充実化を妨げているファクター
  - 3-2-2 技術と特許を繋ぎ発想を拡げるフレームワーク
  - 3-2-3 技術のカテゴリに着目したPPFのフレームワーク
  - 3-2-4 特許のカテゴリに着目したPPFのフレームワーク
- 3-3 「時間」視点の特許ポートフォリオ（When）
  - 3-3-1 特許権の存続期間の捉え方
  - 3-3-2 特許権の領域と時間経過に伴う変化
  - 3-3-3 プロダクトライフサイクルと技術のステージアップ
  - 3-3-4 ライフサイクルを想定した特許出願の継ぎ矢
  - 3-3-5 事業フェーズとともに移行行く特許出願の切り口
- 3-4 「場所」視点の特許ポートフォリオ（Where）
  - 3-4-1 国毎にパッケージ化される特許ポートフォリオ
  - 3-4-2 事業貢献度を想定した権利化国の選び方
  - 3-4-3 各国特許権の効力が及ぶ実施行為の射程
  - 3-4-4 物質／製法特許と販売／生産国の繋がり
  - 3-4-5 権利化国の選定基準となる考慮要素（事業面）

- 3-4-6 権利化国の選定基準となる考慮要素（特許面）
- 3-4-7 総合考慮による出願国の決定
- 3-5 特許網構築の「方法」とアプローチ（How）
  - 3-5-1 特許網構築のジレンマと2つのアプローチ
  - 3-5-2 フォアキャスト型の特許ポートフォリオの組み方
  - 3-5-3 質のポートフォリオで見る個別特許のクライテリア
  - 3-5-4 バックキャスト型の特許ポートフォリオの組み方

## 第4章 フレームワークで学ぶ！ 他社特許に対するクリアランス

- 4-1 他社特許対策の意義と全体像
  - 4-1-1 他社特許権が事業に及ぼす影響
  - 4-1-2 他社特許対策におけるリスク要因
  - 4-1-3 他社特許と自社技術のフェーズで見る対策の相関
  - 4-1-4 他社特許対策の全体像と流れ
- 4-2 他社特許の「調査」
  - 4-2-1 特許調査の種類とその特徴
  - 4-2-2 侵害予防調査（FTO）とは
  - 4-2-3 無効資料調査とは
- 4-3 他社特許の「スクリーニング」
  - 4-3-1 自社技術と他社特許の対比方法
  - 4-3-2 他社特許の自社事業への関連性を見極めるポイント
  - 4-3-3 他社特許の権利範囲と侵害有無のグレーゾーン
  - 4-3-4 他社特許スクリーニングのモデルフロー
- 4-4 他社特許への対策実行「手段」
  - 4-4-1 他社特許対策における4つの代表的な実行手段
  - 4-4-2 特許権の無効化／実施技術による回避
  - 4-4-3 特許権の購入／ライセンス許諾
  - 4-4-4 その他の予備的な対策手段
  - 4-4-5 特許権の無効化手続きの選択肢

# 図解でスッキリ！ 研究開発のための知財戦略の仕組み - 仮

- 4-5 他社特許の「監視」と「管理」
- 4-5-1 他社特許対策の実行マネジメント
- 4-5-2 他社特許対策の組織的なリソース配分
- 4-5-3 群で見通す他社特許対策
- 4-5-4 監視による対策実行タイミングの見極め方
- 4-5-5 権利範囲の有効性と対策実行範囲の見極め方
- 4-5-6 他社特許クリアランスを通して生まれる結束

## 第5章 ここまで押さえる！ 特許の基礎知識

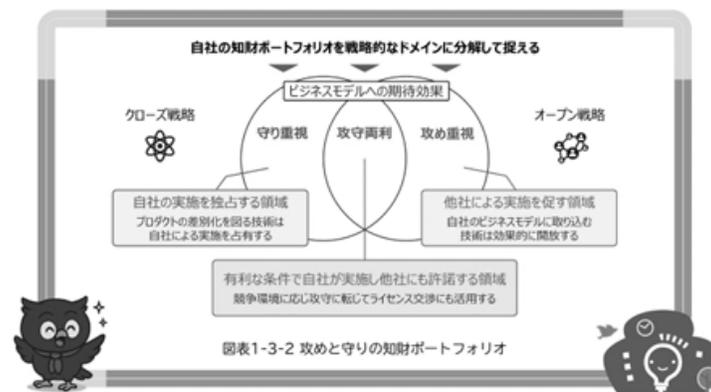
- 5-1 特許要件とは
  - 5-1-1 新規性とその攻略法
  - 5-1-2 進歩性とその攻略法
  - 5-1-3 記載要件とその攻略法
- 5-2 出願前先行技術調査とは
  - 5-2-1 出願前先行技術調査の全体像と流れ
  - 5-2-2 研究開発フェーズと連動させる出願前先行技術調査
- 5-3 拒絶対応とは
  - 5-3-1 拒絶理由通知と2つの対応手段
  - 5-3-2 拒絶対応時に押さえるべきポイント
  - 5-3-3 拒絶対応時の方針の落とし込み方
- 5-4 特許維持管理とは
  - 5-4-1 特許権の維持に要する費用
  - 5-4-2 事業環境を踏まえた特許の棚卸と維持管理
- 5-5 ノウハウ秘匿とは
  - 5-5-1 発明の保護手段の選択肢とその特徴
  - 5-5-2 特許出願と秘匿化の両天秤
  - 5-5-3 特許出願＞秘匿化の重み付け
  - 5-5-4 秘匿化＞特許出願の重み付け

## 第6章 研究開発人材と知財人材の共鳴

### 1-3-2 攻めと守りの知財ポートフォリオ

#### Summary

- ビジネスモデルへの期待効果の観点から、知財は守り重視・攻め重視・攻守両利きの三つのドメインに分解して捉えることができます。
- 事業の成長フェーズや市場の変化に合わせて、これらのポートフォリオを動的にマネジメントすることが大切です。



知的財産権とは、技術やアイデアといった無形資産に国家が与える排他的な権利です。この権利は単に模倣を防ぐためのディフェンスだけではなく、事業を押し進めるためのオフェンスにもなり得ます。だからこそ、企業が保有する知財をどのように組み合わせ、どう活用していくかという戦略的な視点が必要となります。その視点から知財を体系化したのが「ポートフォリオ」の考え方です。それぞれの知財がビジネスモデルにおいて果たす役割を明確にしなが、全体として事業戦略に資するように設計された知財の布陣です。以下の三つの戦略ドメインに分類して整理することがおすすめです。

一つ目は、「守り重視」のドメインです。自社の製品やサービスのコア技術を権利化し、他社からの模倣や参入を防ぐことを主な目的とします。競争優位を築くための防波堤であり、研究開発によって得られた成果をいかに囲い込む

かがポイントです。自社が長期にわたって差別化状態を維持すべきコア・コンピタンス<sup>12</sup>に当たる技術群は、早々に守りを固める重要性が高まります。

二つ目は、「攻め重視」のドメインです。自社の技術や知財を適正に開放し、市場に広く浸透させることが狙いで、例えば、通信規格やソフトウェアインフラのように、他社が利用することによって自社のビジネスモデルの土台が広がっていくような領域が該当します。自社のエコシステムへの参画を促して、収益性の高い領域でのシェアを維持しながら全体の市場規模をグロースさせる戦略です。

三つ目は、「攻守両利き」のドメインです。この領域は、状況に応じて攻めにも守りにも転じられる柔軟性を持っています。たとえば、初期段階では競争力確保のためクローズドに運用しつつ、将来的にパートナーと組むタイミングでライセンスやオープン化を進めるといった使い方が可能です。こうした知財は、まさに事業環境をコントロールする「開所」のような存在であり、不確実性の高い事業においてはとくに重要な資産となります。

知財ポートフォリオは一度設計して終わりではありません。事業の成長段階や市場の変化に合わせて、各技術への戦略的ドメインの振り分けが変わることも多々あります。たとえば、市場立ち上げの初期には自社の中核技術を“守り”でガチガチに囲い込んでいたとしても、マーケットが盛り上がりなければ意味がないと見て、ポートフォリオの帰属を“攻め”に移す戦略転換もあり得ます。このように知財ポートフォリオを動的にマネジメントし事業戦略と連携させるためには、ビジネスモデルとの関係性から期待効果を定義することが必要です。

<sup>12</sup> ゲイリー・ハメル・Gary Hamel・C.K.、ブラハラード・C.K. Prahald 著『コア・コンピタンス経営：未来への競争戦略』（日経ビジネス人文庫、2001年）

原稿を特別にチェック見せ

# オンボードアイピーのご案内



ONBOARDip

知財人材のオンボーディングに特化したe-Learning



Chizainogakko Co., Ltd  
株式会社知財の楽校



01

サービス概要



特徴①  
ターゲット人材の汎用性



特徴②  
コンテンツ内容の実践性

特徴③  
組織的な導入への利便性



オンボードアイピー（ONBOARDip）は知財の楽校がご提供する  
知財人材向けのオンボーディングに特化した e-Learning サービスです

## 02

ターゲット  
人材の汎用性

知財活動のバリューチェーンを担うことになる全ての新知財人材へ…

事業戦略の支援  
知財戦略の推進



知的財産の創造  
権利活用の想定



知財権の言語化  
専門文書の作成



知財法に基づく  
専門手続の実行



企業知財

特許事務所



新卒社員



未経験転職



ジョブチェンジ



未経験転職



新卒所員

知財人材の新人教育として汎用的にご活用いただける e-Learning であり  
企業知財と特許事務所の垣根を越えて標準スキルセットを届けます



ONBOARDip



株式会社  
知財の楽校  
Chitai no Gakko Co., Ltd.



# 02

ターゲット  
人材の汎用性

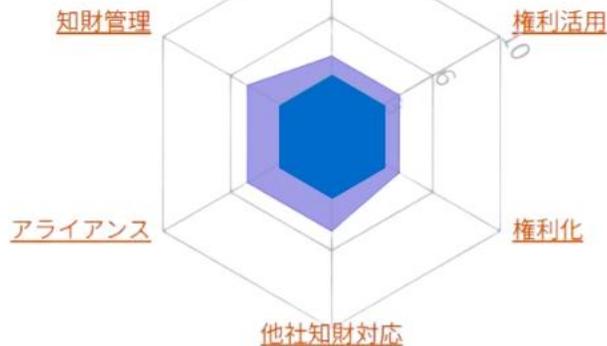


ONBOARDip



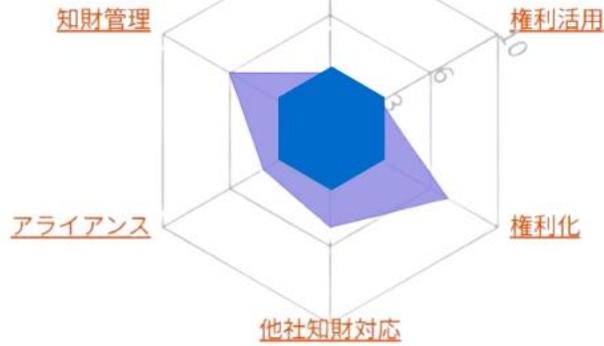
### 企業知財・バランス

知財戦略 コンサル



### 企業知財・権利化タイプ

知財戦略 コンサル



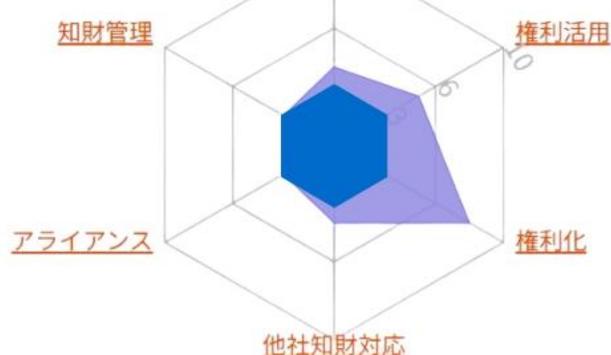
### 企業知財・戦略タイプ

知財戦略・コンサル



### 特許事務所・ベーシック

知財戦略・コンサル



知財人材の成長には役割と意志によって様々な方向性がございますが  
この e-Learning ではコアとなる標準スキルセットの習得を支援いたします



## 03

コンテンツ  
内容の実践性

知財活動のバリューチェーンを繋ぐにあたって本質的なコンテンツを…

事業戦略の支援  
知財戦略の推進



知的財産の創造  
権利活用の想定



知財権の言語化  
専門文書の作成



知財法に基づく  
専門手続の実行



ONBOARDip



株式会社  
知財の楽校  
Chitainogakko Co., Ltd.



事業・研究開発視点で  
知財を捉える知識体系が必要

企業知財人材



知財実務では文書まで  
落とし込める実践力が必要



研究開発人材



事務所弁理士



知財人材のオンボーディングにおいて偏ることなく  
事業・研究目線での知財知識と実務文書作成の実践力を養えるコンテンツです

事業戦略の支援  
知財戦略の推進知的財産の創造  
権利活用の想定知財権の言語化  
専門文書の作成知財法に基づく  
専門手続の実行

事業・研究開発視点で  
知財を捉える知識体系が必要



特許権の効力が及ぶ範囲	特許網	技術 A	技術 B	技術 C	技術 D
技術については越境する (Whatの観点)	国については越境しない (Whereの観点)	JP	特許権X <sub>JP</sub>	特許権Y <sub>JP</sub>	
クレームを創意工夫し広く特許権を成立させる	各国法基準に照らし国毎に特許権を獲得する	US	X <sub>US</sub>	Y <sub>US</sub>	
出願国の数だけ投入するリソースは増えるため事業や開発のエリア戦略を基に特許網を組んでいく		EP	X <sub>EP</sub>		
国毎にパッケージ化される特許ポートフォリオ		CN	X <sub>CN</sub>	Y <sub>CN1</sub>	Y <sub>CN2</sub>
			ファミリX	ファミリY	

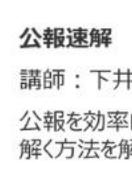


知財実務では文書まで  
落とし込める実践力が必要



発明言語化

講師：谷 和紘

発明を言語化するための  
考え方を解説

公報速解

講師：下井 功介

公報を効率的に読み  
解く方法を解説

抵触性判定

講師：奥村 光平

新規性判定と侵害判  
定の演習から抵触性  
判定スキルを習得

事業・研究開発視点で知財知識を図解している知財の楽校の動画と  
演習や事例を取り入れた実務ゼミを提供する知財塾の録画を見ることができます



04

組織的な導入  
への利便性

申込  
支払

↑ ↑ ↑

↓ ↓ ↓

ID  
付与



お申込みいただいた数のIDを発行して  
全動画コンテンツを視聴できる環境を即時に提供



必要なときに必要な人材に対して  
IDの割り当てを希望し e-Learning を有効活用

知財の楽校とお申込み企業・特許事務所様との間で一括管理が可能であり  
必要なときに必要な人材に対して e-Learning の環境を手配することができます



04

組織的な導入  
への利便性

視聴状況



ID毎の視聴状況を定期的にお知らせいたします



業務状況に照らして学習コンテンツを指導できます

各新人がどのコンテンツをどれだけ視聴しているかをお知らせできるため  
担当業務の状況に照らして学習して欲しい内容を指導することが可能です



05

プラン紹介



## CONTENTS

実装動画の全てを  
見放題



## EXTRA

年度内に一回まで  
ID割り当て変更可能  
3か月に一度視聴状況の  
レポート受取可能



## PRICE

ID一つ当たり年額  
税込 ¥99,000



ONBOARDip



実装動画の数が増えるに連れてID単価は変更を予定しておりますが  
取得済のIDはご更新いただく限りお値段据え置きでのご提供となります

# オンボードアイピーのコンテンツ実装マップ

矢印はモデルフローの一例  
習熟度や担当職務に応じて自由に受講可

## 基軸

## 拡張

上流

### 図解！事業目線の知財実務メソッドシリーズ

特許ポートフォリオ形成編  
(全5回)

他社特許クリアランス編  
(全5回)

知財コンサル基礎ゼミ  
(全4回)

知財契約関連ゼミ  
(企画中)

特許出願・権利化実務編  
(全5回)

特許調査編  
(全5回)

下流

発明言語化ゼミ  
(全5回)

検索式作成ゼミ  
(全5回)

商標登録性判定ゼミ  
(全6回)

意匠登録関連ゼミ  
(企画中)

クレームドラフティングゼミ  
(機械・化学・IT各1回)

抵触性判定ゼミ  
(全5回)

公報速解ゼミ  
(全5回)

近日実装

実践！スキル別の事例演習付き知財実務ゼミ